

報
告

昭和五十一年度大会の概況 日本思想史学会の昭和五十一年度大会は、十月二十三日（土）・二十四日（日）・二十五日（月）

・二十六日（火）の四日間にわたり、東北大学文学部を会場として開催された。

第一日・第二日は総会並びに研究発表が行われた。第一日目は、二会場に分れて研究発表が行われた。第一日目の研究発表の研究発表者とテーマは次のとおりである。

- | | | |
|----------------------|-------------------|--------|
| 1、神仏習合と鎮護国家 | 岡山ノートルダム清心女子大学助手 | 八重樫直比古 |
| 2、道元における叢林教育の二面性 | 仙台市立女子商業高校教諭 | 加藤健一 |
| 3、神道五部書思想―外宮祭神論をめぐって | 東北大学助手 | 高橋美由紀 |
| 4、蓮如とアイデンティティ | 中央大学大学院 | 新保哲 |
| 5、中世における卑賤觀念 | 仏教大学講師 | 池見澄隆 |
| 6、日本人の罪意識 | | 宇賀神恵子 |
| 7、イエズス会宣教師の見た補陀落渡海 | 国学院大学講師 | 三橋健 |
| 8、茶書と茶道思想の変化 | 岡山就実短期大学助教授 | 神原邦男 |
| 9、「翁問答」における運命 | 東京大学大学院 | 高橋文博 |
| 10、時処位論の展開―藤樹から蕃山へ | 東北大学大学院 | 佐久間文正 |
| 11、徂徠における「天」と「作為」 | 学習院大学助手 | 小島康敬 |
| 12、鶴峯戊申と寺門静軒 | 岡山ノートルダム清心女子大学助教授 | 藤原康暹 |
| 13、「古事記伝」における記紀観の実態 | | 梅沢伊勢三 |

右の研究発表終了後、総会が開かれた。事務局より昭和五十年事業報告および決算報告がなされ、五十一年度予算案・事業計画案が提出された。審議の結果これらは承認された。総会終了後六時より仙台共済会館において懇親会が催された。

大会第二日目は、午前中研究発表が行われた。第二日目午前の研究発表の研究発表者とテーマは次のとおりである。

- | | | |
|--|----------|------|
| 1、熊本敬神党（神風連）の思想とその影響について | 津山高校教諭 | 福田篤二 |
| 2、明治十年代におけるキリスト教の弁証
——山崎為徳「天地大原因論」から植村正久「真理一斑」へ | 東京工業大学助手 | 田代和久 |
| 3、オルコットの来日をめぐって | 華頂高校教諭 | 野田秀雄 |
| 4、田辺元の初期思想 | 愛知教育大学講師 | 渡辺和靖 |

右の研究発表終了後、「日本思想史における『中世的なもの』」と題して主題発表が行なわれた。主題発表の分担テーマと発表者は次のとおりである。

- | | | |
|--------------------|---------|------|
| 1、神道における「中世的なもの」 | 皇学館大学教授 | 鎌田純一 |
| 2、仏教における「中世的なもの」 | 筑波大学助教授 | 奈良博順 |
| 3、倫理思想における「中世的なもの」 | 東京大学教授 | 相良博亨 |
| 4、歴史思想における「中世的なもの」 | 東北大学講師 | 玉懸博之 |
| 5、文芸理念における「中世的なもの」 | 東北大学教授 | 片野達郎 |

なお、司会者は荻野三七彦（早稲田大学名誉教授）・石毛忠（千葉敬愛短期大学助教授）両氏であった。

大会第三日・第四日目は、羽黒・鶴岡・酒田方面への見学旅行が行われ、羽黒山、鶴岡致道館、善宝寺、海向寺即身仏等を二日間にわたって見学した。参加者は五十余名であった。